

## 第三級海上特殊無線技士試験問題

# 無線工学

(注) 次の各問題の記述について、正誤のいずれかを選び、答案用紙の答欄に正しく記入(マーク)すること。

1. 電波の伝わる速さは、音が大気中を伝わる速さよりも速い。
2. 単側波帯(SSB)方式に用いられる変調は、周波数変調である。
3. スピーチクラリファイヤは、受信したSSB電波の明りょう度が悪いとき、聞きやすくするために使用する。
4. 浮動充電(フローティング)方式を用いると、負荷の変動に伴う電圧変動が大きい。
5. 船舶に用いる超短波(VHF)帯の空中線は、使用する電波の波長のほぼ2分の1か4分の1の長さのものが多い。
6. 超短波(VHF)帯では、送受信空中線を高くするほど通信のできる距離が延びる。
7. 容量が100[Ah](アンペア時)の充電済み蓄電池は、5[A]の電流を連続して20時間流すことができる。
8. FM(F3E)受信機は、入力信号がないとき、スピーカから雑音を発する。この雑音を消すため、主に音量調整つまみを使用する。
9. 電離層は、地球表面に近い順にF層、E層、D層と呼ばれる。
10. 船舶に設置されるレーダーは、自船の周囲360度の範囲を探知できるよう、無指向性アンテナを使用する。